



久御山町上下水道だより

2024. 3

発行 久御山町事業環境部上下水道課
〒613-8585 久御山町島田ミスノ38番地
TEL : 075-631-9987 / 0774-45-3919
FAX : 0774-46-0086

久御山町水道事業ビジョン(第2次)を策定しました!

本町水道事業では、水道施設の更新・耐震化を推進しながら、より一層の経営効率化と経営基盤の強化を図り、持続的かつ安定的な事業運営を目指すため「久御山町水道事業ビジョン(第2次)」を策定しました。

策定趣旨

近年の水道事業を取り巻く環境は、人口減少や節水機器の普及、大口需要者の地下水利用などによる水需要の減少とこれに伴う料金収入の減少、施設の老朽化や耐震化への対応など大きく変化しており、水道事業は多くの課題に直面しています。

このような状況の中で、「久御山町水道事業ビジョン(平成28年3月策定)」は策定後8年が経過し、「久御山町水道事業経営戦略(平成31年3月策定)」については、総務省から、PDCAサイクルを通じたの検証や評

価を踏まえながら3~5年ごとに改定することが求められていることから、このたび、両計画の見直しを実施し、事業経営のさらなる効率化を図るとともに、安全・安心な水道水を持続的・安定的に供給できる水道事業の実現を目指すため、両計画を合わせて一つの計画とし、本町水道事業の進むべき方向性と施策を示す新たな計画として「久御山町水道事業ビジョン(第2次)」を策定しました。

計画期間

令和6年度~令和15年度の10年間

水道事業の沿革

本町水道事業は、昭和43年4月に計画給水人口10,000人、計画1日最大給水量3,000m³/日で給水を開始し、その後、水需要の増大に対応するために、第1次

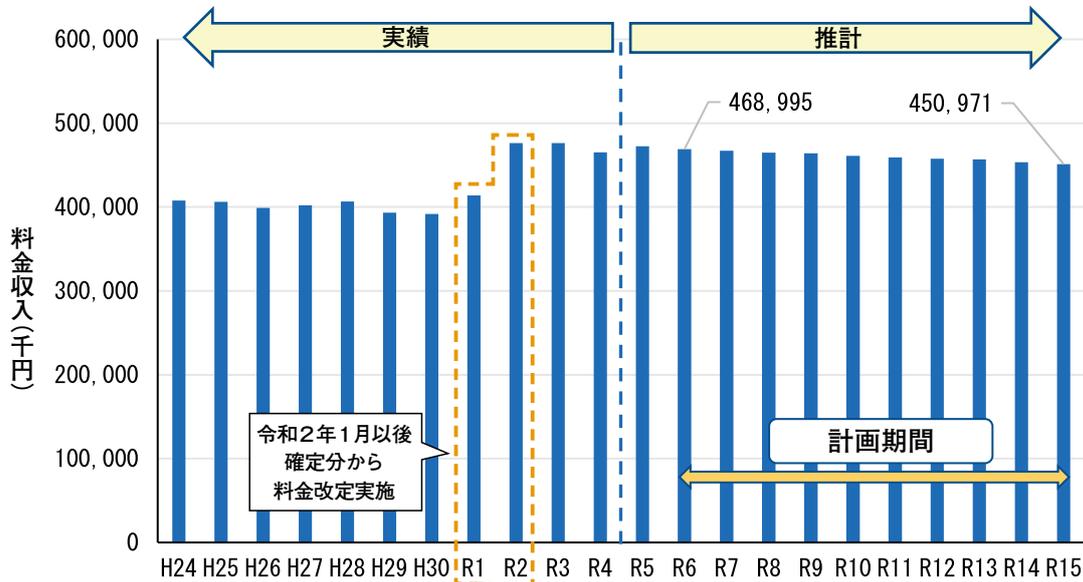
から第3次の国の認可を得て、順次、拡張事業を実施してきました。近年は、管路等の更新や耐震化工事を実施しています。

	施工期間		計画値		事業費 (百万円)	事業概要
	着工	竣工	給水人口 (人)	1日最大給水量 (m ³ /日)		
創設	S42.8	S44.6	10,000	3,000	101	佐古浄水場の整備 京都府営水道から受水
第1次拡張	S47.6	S49.3	15,000	10,000	178	第1・2配水池建設
第2次拡張	S50.10	S61.5	20,000	15,000	537	自己水源の整備 (1・2・3号取水井建設) 第3・4配水池建設
第3次拡張	H5.11	継続中	22,000	18,000	1,374 (計画予定額)	北浦配水場建設 第2期工事休止中(第2浄水場等)

現状と課題・将来の事業環境

【料金収入の見通し】

有収水量の減少に伴い、**料金収入は、令和6年度の468,995千円から令和15年度には450,971千円(△18,024千円、△3.8%)まで減少する見通しです。**

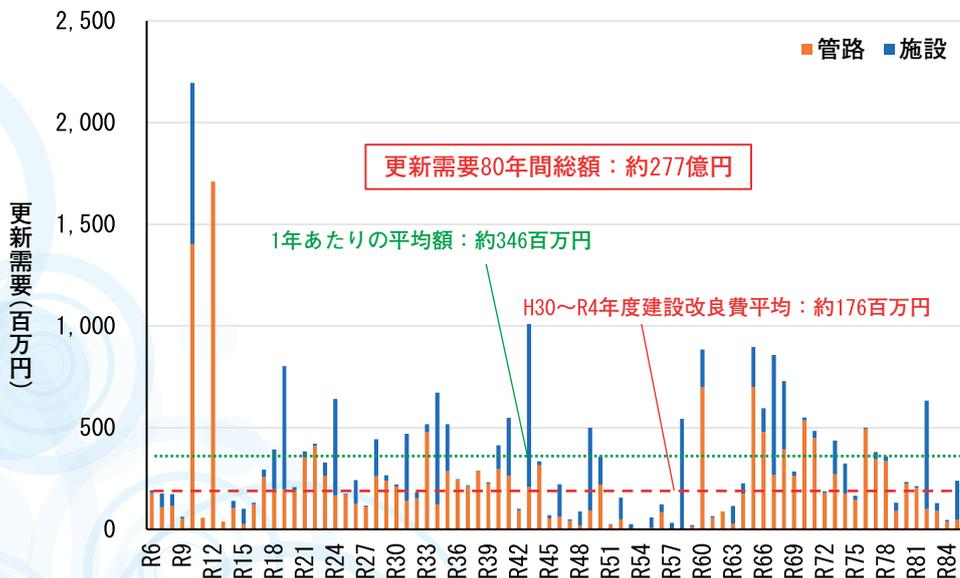


【更新需要の推移】

本町の水道管路は、令和5年度時点で法定耐用年数40年を超過している管路が約29km、総延長の約27%を占めており、**計画的に管路の更新事業を進める必要があります。**

また、令和4年度末現在で管路の耐震化率は約27%であり、**管路の耐震化も着実に進める必要があります。**管路の中でも、災害直後に優先して水の確保が必要となる広域避難場所や救急指定病院等への給水ルート「重要給水施設配水管」の耐震化を優先して進める必要があります。令和4年度末現在で重要給水施設配水管の約75%の耐震化を完了しています。

現状の施設を維持しながら必要な更新事業を行う場合、今後80年間で総額約277億円が必要となり、1年あたりの平均額は約3.5億円となります。平成30年度から令和4年度の建設改良費の年平均は約1.8億円であり、**今後、老朽化施設・管路の更新のために、事業費が今までの約2倍となる見通しです。**本町では、水需要が減少傾向にあり、今後さらに施設規模が過大となっていく見込みであることから、水道事業の健全経営のため、**水道施設の適切なダウンサイジングを検討する必要があります。**



基本理念と基本目標・具体的施策

本町水道事業の現状と課題及び将来の事業環境を踏まえ、『安全・安心な水を未来につなぐ みんなで支えるくみやま水道』を新たな基本理念とし、関連する基本目標・具体的施策を設定しました。

基本理念	基本目標	実施施策	具体的施策
安全・安心な水を未来につなぐ みんなで支えるくみやま水道	安全 安全な水を いつも 送る水道	①水質管理の充実と強化	・「久御山町水安全計画」の確実な遂行
		②鉛製給水管の解消	・鉛製給水管の取替え推進
	強靱 強靱で安定 した水道	①重要給水施設配水管耐震化事業の完遂	・重要給水施設配水管の耐震化の推進
		②老朽管の計画的な更新	・老朽管の計画的な更新
		③非常時対応能力の強化	・給水拠点非常用給水栓の設置 ・ 自家発電機の燃料確保 ・危機管理マニュアルの適宜見直し
	持続 健康に持続できる水道	①ダウンサイジングの検討	・北浦配水場休廃止の詳細検討
		②事業経営基盤の強化	・久御山町上下水道事業経営審議会において、継続的な水道事業の経営状況の報告及び経営課題等についての審議の実施 ・アセットマネジメントや経営戦略に基づく適切な水道料金の検討 ・企業債発行額の抑制
		③広報活動の推進	・久御山町上下水道だより及びホームページ等の内容の充実
		④環境への取組	・省エネルギー性能の高い配水ポンプの導入 ・ 太陽光発電の継続運用

投資・財政計画（収支計画）

【投資計画】

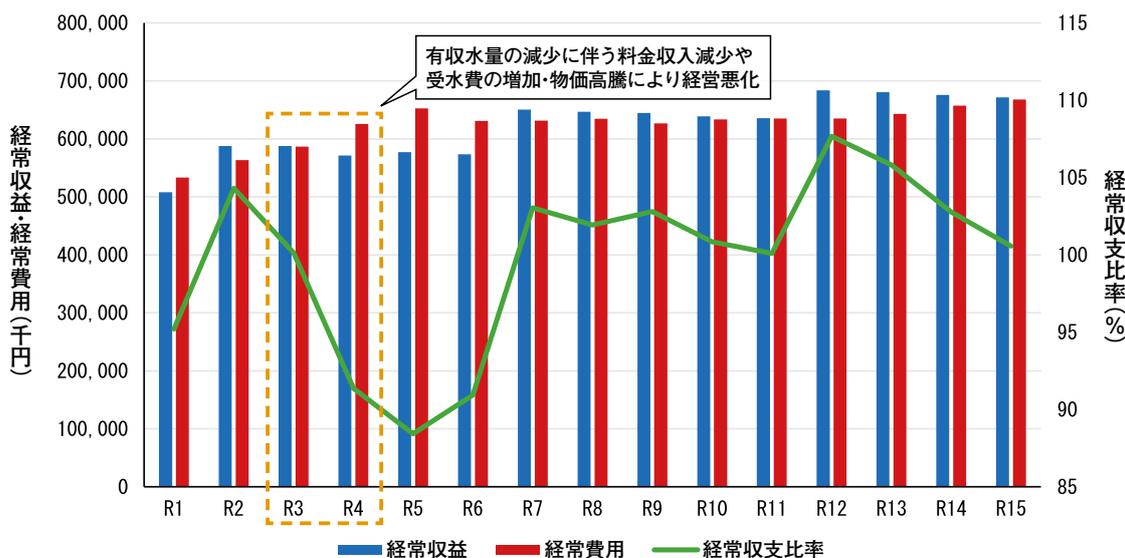
今後、老朽化施設・管路の更新に伴い建設改良費が大幅に増加する見込みです。

重要給水施設配水管耐震化事業を完遂し、その後、老朽配水管更新事業を推進することで、災害に強い強靱で安定した水道を目指します。

【財政計画】

現在の料金水準を維持した場合、水需要の減少に伴う料金収入の減少や物価高騰等に伴う費用の増加の影響により、近い将来に資金ショートを起こす可能性が高くなっています。水道事業を健全に運営するためには経常収支比率を100%以上に保つ必要があり、そのためには今後の物価上昇等も考慮した適切な料金改定が必要です。

本ビジョンでは、**ダウンサイジングの費用削減効果により料金改定率を抑えることができた結果、令和7年度に前回経営戦略で示した16.9%の料金改定を実施するものとして見込んでいます。**また、令和7年度以降についても、経常収支比率100%以上が保てるよう、**5年ごとに料金水準の見直しを見込んでいます。**



令和6年1月1日に発生した能登半島地震によって、改めて水道の安定供給の重要性への認識が高まっていることから、今後は、本ビジョンに基づき、水道施設の更新・耐震化を推進しながら、より一層の経営効率化と経営基盤の強化を図り、将来にわたって持続可能な水道事業を運営してまいります。

詳しい内容をご覧になりたい場合 水道事業ビジョン(第2次)と同概要版をホームページに掲載しています。(令和6年4月1日公開)パソコン等の環境がない場合は、町情報公開コーナー(役場庁舎1階)で閲覧することができます。



令和4年度 下水道事業会計 決算

令和4年度の収益的収支における収入は、有収水量の減少に伴い下水道使用料収入が減少したものの、前年度と比較して4万円(0.005%)増加し、7億5,239万円となりました。支出は、下水道維持管理負担金などの増加により、前年度と比較して2,197万円(3.4%)増加し、6億6,024万円となりました。その結果、当年度純利益は、前年度と比較して2,193万円(19.2%)減少し、9,215万円となりました。

令和4年度で、4年連続の黒字決算を達成することができましたが、今後は、水道事業と同様、人口減少等の影響により使用料収入は減少傾向で推移することが見込まれます。

今後も、本町下水道事業の中長期的な事業計画である「久御山町下水道ビジョン」に基づき、効率的な事業運営に努め、下水道施設を適切に維持管理し、修繕・改築を計画的に進めていきます。

詳しい内容をご覧になりたい場合

決算の内容を踏まえた下水道ビジョンの事後検証をしていますので、町ホームページに掲載している令和5年度第5回久御山町経営審議会の会議資料をご覧ください。



カラーマンホールを設置

下水道は道路の下に埋設されているため、普段目にすることはありませんが、衛生的で快適な生活環境や河川等の水質保全を図るうえで、欠かすことのできない、とても大切な役割を担っています。そんな下水道を身近に感じていただくとともに、下水道への接続率向上を推進するため、カラーマンホールを町内5箇所に設置しました。デザインには、水を「澄ます」、カエルを水に「住ます」から「スマッシー」と名付けられた町下水道キャラクターを中心に置き、背景には町の花「さつき」と町章を描いています。是非、探してみてください。



【被災地への応援派遣について】

水道事業では、災害などにより大規模断水が発生した場合、相互に応援する取り組みを行っています。令和6年能登半島地震では、令和6年2月20日(火)から23日(金)の4日間、被災された石川県能登町に給水車による応急給水活動に行ってきました。

